

「人工呼吸器装着等医療依存度の高い長期療養者への  
24時間在宅支援システムに関するアンケート調査」

結果

# 目 次

I. 調査概要	1
1. 目的	1
2. 調査対象及び方法	1
3. 調査期間	1
4. 調査内容	1
5. 回収状況	2
6. 調査実施体制	2
II. 結果の概要	3
1. 人工呼吸器装着利用者への対応の状況	3
2. 人工呼吸器装着利用者の状況	5
3. 回答した施設の概要	9
4. ニーズおよび課題	12
(1) 訪問看護ステーション側のニーズ	12
(2) 利用者本人・家族のニーズ	17
III. 調査結果	18
1. 人工呼吸器装着利用者への対応の可能性	18
(1) 人工呼吸器装着利用者への夜間を含めた対応の可能性	18
(2) 人工呼吸器装着利用者への24時間対応を可能にするために必要な条件	19
(3) 人工呼吸器を装着している方への行為別対応可能性	20
2. 人工呼吸器装着利用者への対応の実績	21
(1) 人工呼吸器を装着している利用者の有無	21
(2) 2002年12月1ヵ月の人工呼吸器装着利用者の状況	22
(3) 過去一年間の人工呼吸器装着利用者実数	23
(4) 人工呼吸器装着利用者に関する他機関との連携の状況	24
(5) 人工呼吸器装着利用者への夜間訪問の状況	25
(6) 人工呼吸器装着利用者への訪問形態	26
3. 人工呼吸器を装着している利用者の状況	28
(1) 人工呼吸器を装着している利用者の数	28
(2) 年齢	28
(3) 性別	29
(4) 要介護認定の有無	30
(5) 主病名	31
(6) 呼吸管理	32

(7) 発症年月日 .....	32
(8) 人工呼吸器装着年月 .....	33
(9) 呼吸器装着後の在宅療養開始年月日 .....	34
(10) 主介護者 .....	35
(11) 副介護者 .....	35
(12) 人工呼吸器の装着時間 .....	36
(13) コミュニケーション .....	37
(14) コミュニケーション手段 .....	37
(15) 訪問回数 .....	38
(16) 訪問で徴収する交通費 .....	38
(17) 夜間訪問対応 .....	39
(18) 人工呼吸器関連ケアの内容 .....	40
(19) メーカーによる人工呼吸器のメンテナンス .....	41
(20) 利用しているサービス .....	43
(21) 他機関との連絡・調整を主に行っている機関 .....	44
(22) 現在の1ヵ月の自己負担額 .....	45
(23) 利用者・家族が1ヶ月間に医療・看護・介護サービス等に支払える自己負担金の限度額 .....	47
(24) 訪問形態別訪問実績と収入 .....	48
(25) 利用者本人・家族のサービスへのニーズ .....	49
4. 施設概要 .....	51
(1) 所在地 .....	51
(2) 職員数 .....	51
ア. 職員数合計 .....	51
イ. 常勤 .....	51
ウ. 非常勤 .....	51
(3) 開設主体 .....	51
(4) 併設施設 .....	51
(5) 営業日・営業時間の状況 .....	61
(6) 診療報酬上・介護報酬上の加算の届出状況 .....	61
(7) 利用者数 .....	64
ア. 健康保健法等の利用者 .....	64
イ. 介護保険法の利用者 .....	64
(8) 24時間計画的な訪問看護の有無 .....	68
(9) 緊急時の対応方法の状況 .....	68
(10) 医療依存度の高い利用者への対応状況 .....	69
(11) 夜間滞在訪問、複数回訪問、長時間型訪問の実施状況 .....	70
(12) 夜間滞在訪問、複数回訪問、長時間型訪問の利用者数 .....	71

(13) 夜間滞在訪問、複数回訪問、長時間型訪問の訪問回数 .....	72
(14) 人材の採用・確保の状況 .....	73
(15) 職員に受講してもらいたい研修の内容 .....	74

## I. 調査概要

### 1. 目的

この調査は、人工呼吸器装着利用者などの医療依存度の高い利用者に対する訪問看護ステーションの対応の実態を把握し課題を明確にすることで、今後の24時間在宅ケアシステムのあり方を検討するための基礎資料とすることを目的とする。

### 2. 調査対象及び方法

社会福祉医療事業団WAM-NETで公開された訪問看護ステーション名簿(平成13年4月現在)の4,964施設を調査対象とした。調査対象から無作為抽出した3,000施設を調査客体とし、質問紙を用いたアンケート調査(郵送配布・郵送回収)を行った。

### 3. 調査期間

調査は平成15年1月から2月にかけて行った。記入に際しては平成15年1月1日現在の状況あるいは平成14年12月一ヶ月間の実績について回答してもらった。

### 4. 調査内容

調査項目は以下のとおり。

#### (1) 施設概要

所在地、職員数、開設主体、併設施設、営業日・時間、加算の届出、1ヶ月の利用者数・訪問回数、研修へのニーズなど

#### (2) 人工呼吸器装着利用者への対応可能性

人工呼吸器装着利用者への夜間を含めた対応の可能性、24時間対応に必要な条件

#### (3) 人工呼吸器装着利用者への対応の状況

人工呼吸器を装着している利用者数・訪問回数、夜間訪問の状況、他機関との連携の状況

#### (4) 人工呼吸器装着利用者の状況(人工呼吸器を装着している利用者の状況を個別に把握)

年齢、性別、主病名、呼吸管理の状況、訪問回数、夜間訪問回数、実施している人工呼吸器関連ケア内容、利用サービスの状況、自己負担額の状況、訪問系大別訪問実績とステーションの収入、利用者・家族のサービスニーズ

#### (5) 人工呼吸器装着利用者への訪問形態別状況と課題

#### (6) 人工呼吸器装着利用者への訪問に関する課題や要望

## 5. 回収状況

有効回収数は896件（回収率30.7%）であった。

図表 1 回収状況

配布数	3,000件
有効配布数	2,914件
回収数	896件
回収率	30.7%

人工呼吸器（侵襲・非侵襲を問わない）装着利用者については、461人分についての回答が得られた。

## 6. 調査実施体制

調査は（財）日本訪問看護振興財団が実施した。

調査の実施にあたっては、学識経験者等で構成される検討委員会を組織し、調査の企画、調査票の設計および調査結果の分析について、専門的観点からの助言・指導を受けながら実施した。

### ■検討委員会名簿■

氏名	所属・役職
○ 牛込 三和子	群馬大学 医学部保健学科看護学専攻 教授
小倉 朗子	財団法人 東京都医学研究機構 東京都神経科学総合研究所 難病ケア看護研究部門 研究員
川村 佐和子	東京都立保健科学大学 保健科学部看護学科 教授
熊本 雄治	日本 ALS 協会 事務局長
長濱 あかし	刀根山訪問看護ステーション 所長
平林 勝政	國學院大學 法学部 教授
福原 信義	国立療養所犀潟病院 副院長

○：委員長

## II. 結果の概要

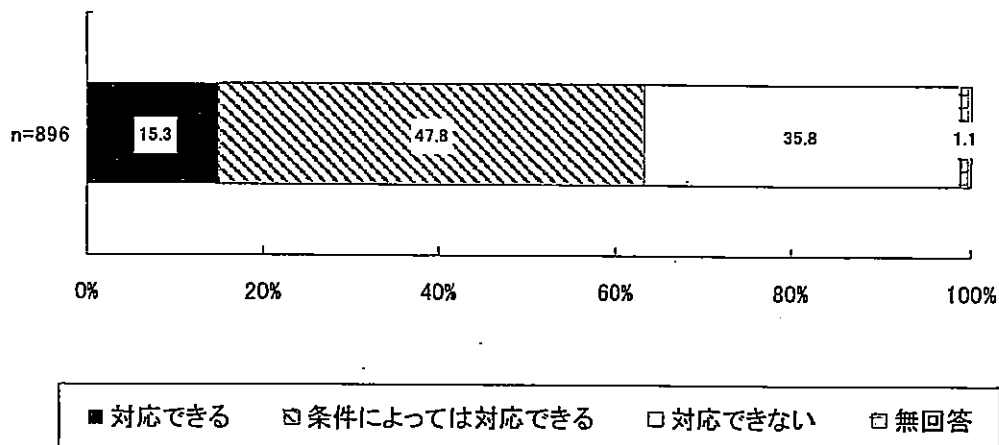
回答のあった訪問看護ステーション 896 施設の概要について集計・分析した。

また、回答のあったステーションの利用者のうち、人工呼吸器（侵襲、非侵襲を問わない）を装着している利用者については、461 人分についての回答を集計・分析した。

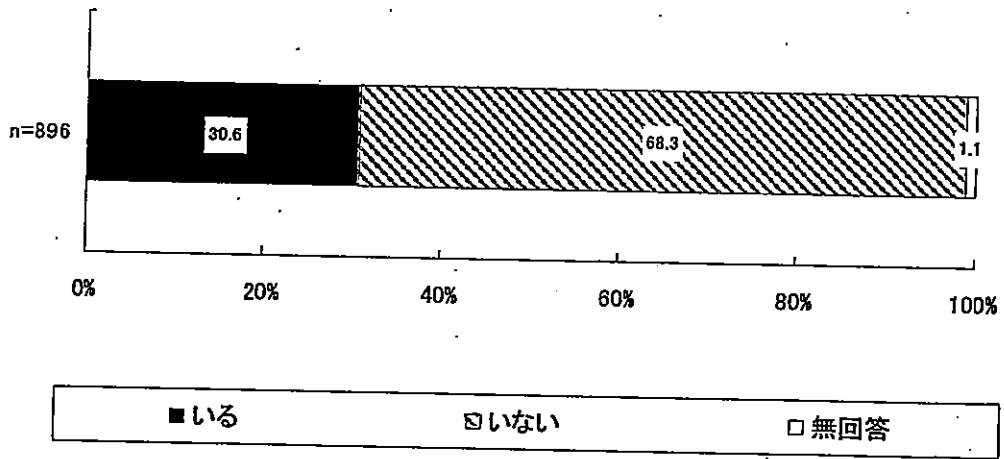
### 1. 人工呼吸器装着利用者への対応の状況

- 人工呼吸装着利用者への夜間必要時も含めた対応については、15.3%が対応できるとし、47.8%が条件付きで対応可能と回答した。対応できるまたは条件付きで対応できる場合には、平均で2.1人までの利用者に対応可能であった。
- 平成15年1月1日時点で、30.6%の施設で人工呼吸器装着利用者への訪問を実施している。人工呼吸器装着利用者がある施設だけで見ると、人工呼吸器装着利用者数は1施設あたり平均1.7人であった。
- 人工呼吸器装着利用者への夜間訪問は人工呼吸器装着利用者がある施設の9.9%の施設で実施している。夜間訪問を実施している場合の訪問回数は、1施設あたり1ヶ月1～2回が9割を占めていた。

図表 2 人工呼吸器装着利用者への夜間必要時も含めた対応の可能性



図表 3 人工呼吸器を装着している利用者の有無





## 2. 人工呼吸器装着利用者の状況

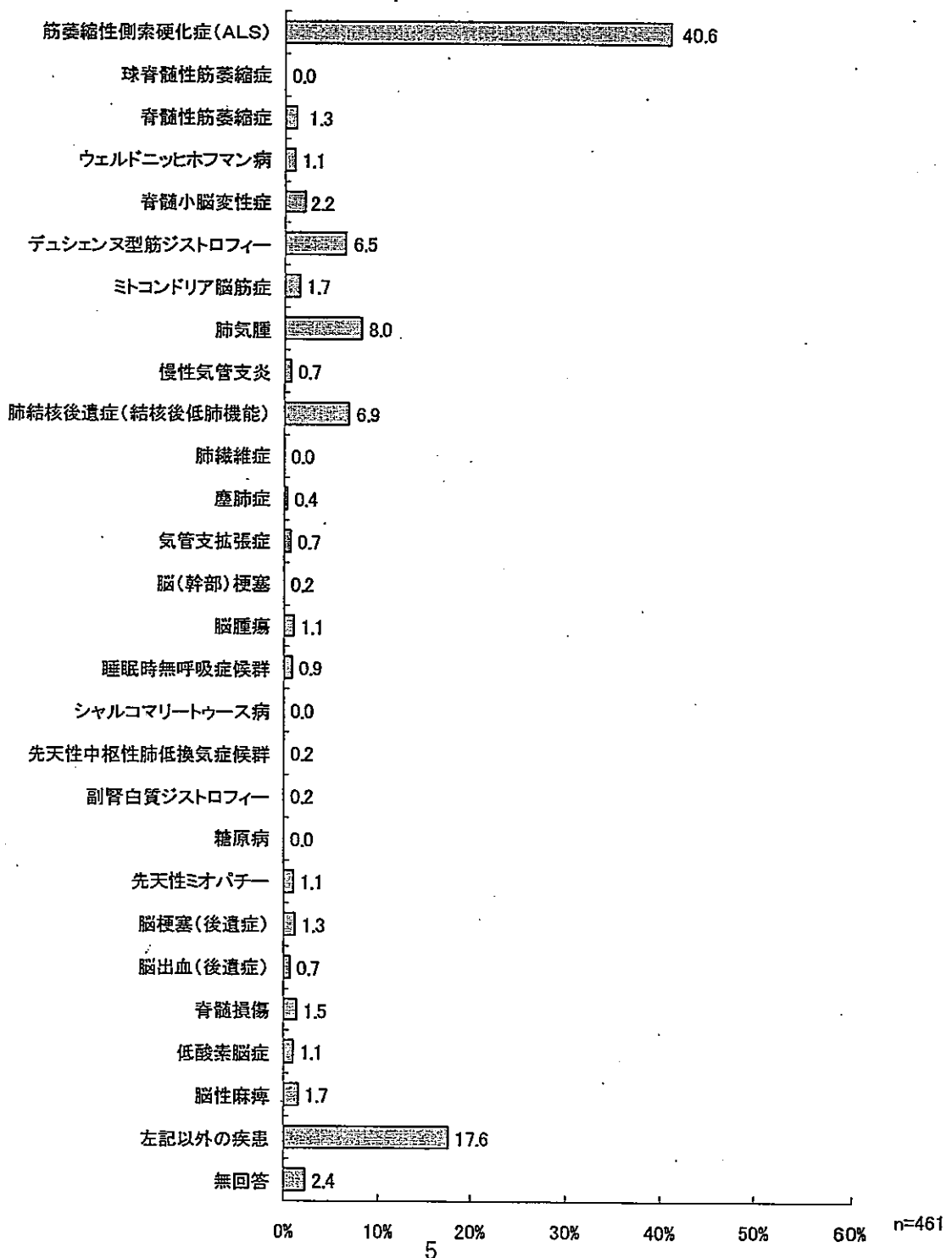
○利用者個票について回答のあった 272 施設の 461 人分の集計を行った。

○人工呼吸器装着利用者は平均年齢が 54.9 歳で、男性が 62.9%、女性が 36.7%であった。

○65.5%が要介護認定を受けており、認定を受けている利用者の 73.8%は要介護度 5 であった。

○疾病別に見ると、筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の利用者が約 4 割と最も多い。

図表 4 主病名

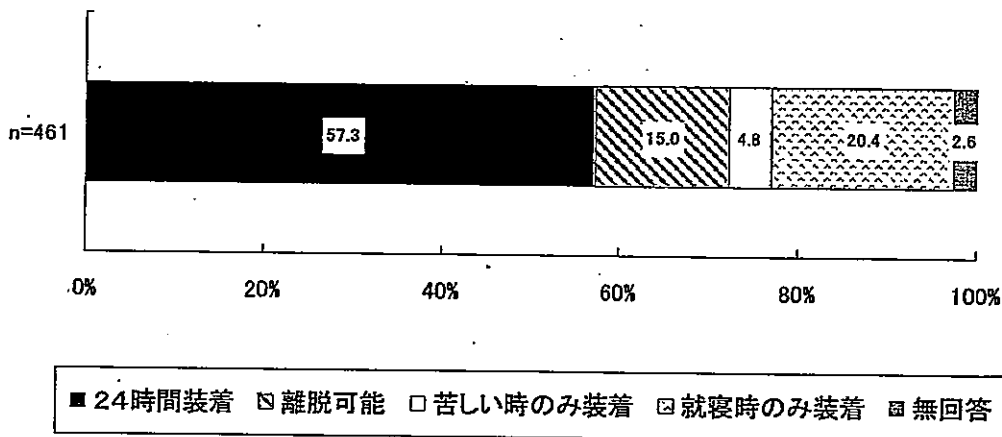


○主たる疾病の発症時期は、過去1年以内が3.3%、過去5年以内が34.1%、過去10年以内で見ると59.7%である。人工呼吸器装着開始時期は、過去1年以内が17.4%、過去5年以内が68.8%、過去10年以内では88.1%とほとんどを占める。また、在宅療養開始時期は、過去1年以内が26.7%、過去5年以内が73.9%、過去10年以内では89.7%とほとんどを占める。

○主介護者は配偶者が最も多く53.6%を占めていた。次いで親22.6%、子10.8%などであった。また、副介護者がいる利用者も39.3%見られた。

○人工呼吸器の装着時間としては「24時間装着」57.3%が最も多く、次いで「就寝時のみ装着」20.4%、「着脱可能」15.0%などであった。また、着脱可能な場合、その時間の平均は69.3分だった。

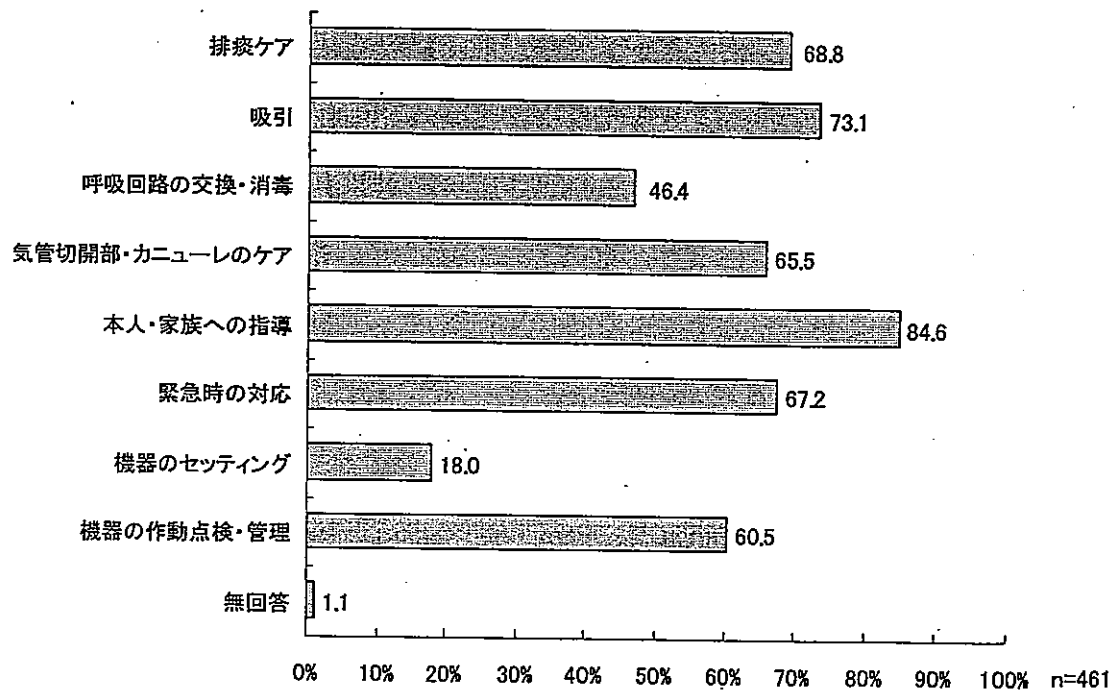
図表 5 人工呼吸器の装着時間



○回答したステーションからの12月の訪問回数は平均12.3回であった。夜間訪問対応を行っているケースは8.9%と多くない。ただし、夜間訪問しているケースの中には1ヶ月に100回以上の夜間訪問をしている場合も1ケース見られている。

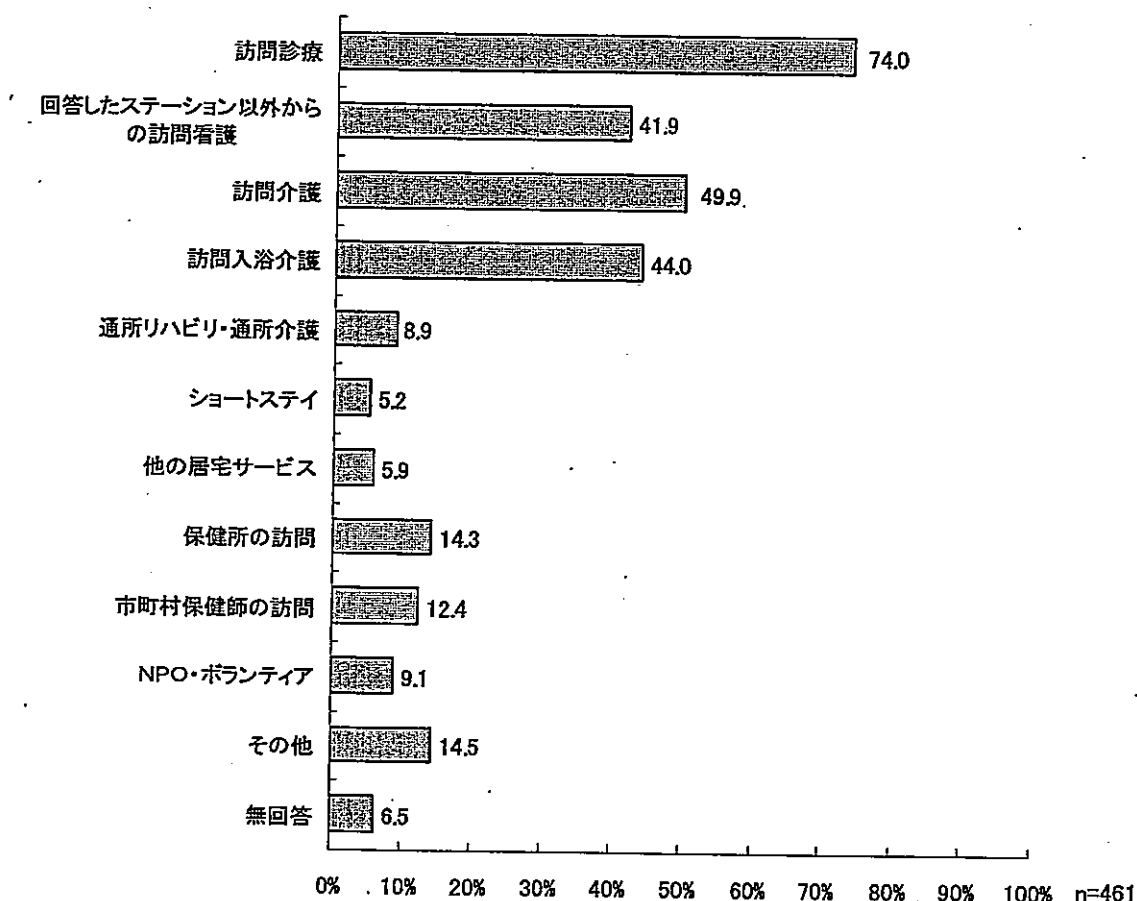
○人工呼吸器関連ケアとして実施しているのは「本人・家族への指導」84.6%、「吸引」73.1%、「排痰ケア」68.8%、「緊急時の対応」67.2%などが多く挙げられた。

図表 6 実施している人工呼吸器関連ケア



○回答したステーションの訪問看護以外に利用しているサービスとしては、「訪問診療」が74.0%（平均訪問回数0.96回/週）、「訪問介護」が49.9%（平均訪問回数5.2回/週）、「回答したステーション以外からの訪問看護」が41.9%（平均訪問回数2.8回/週）などであった。

図表 7 回答したステーションの訪問看護以外に利用しているサービス

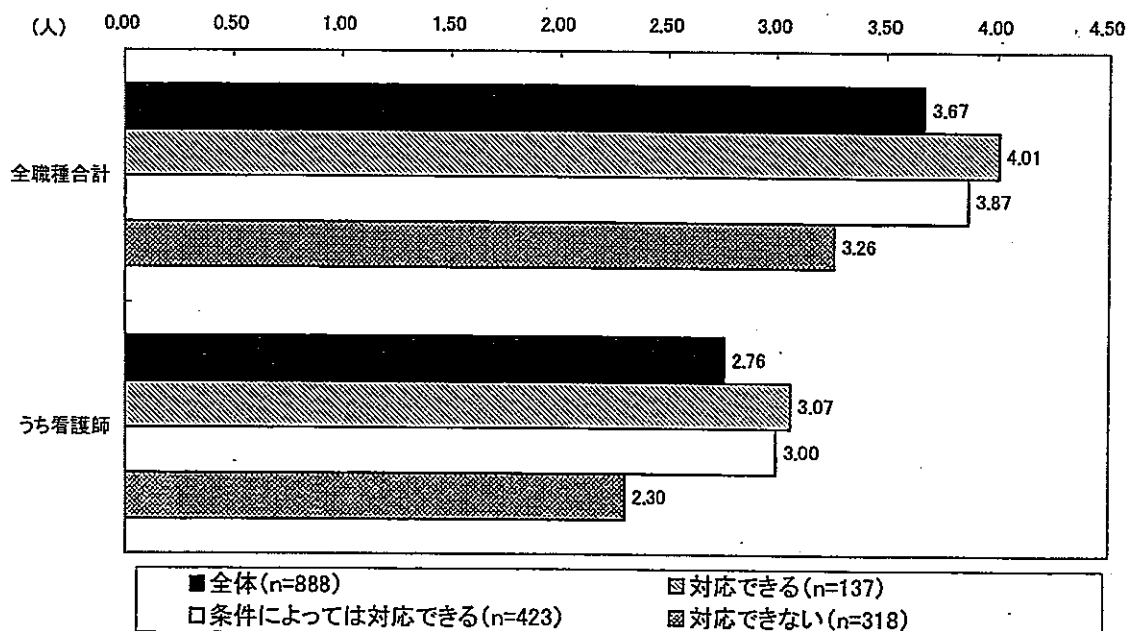


○回答したステーションが夜間滞在型訪問（利用者宅に夜間宿泊する）を平成14年12月中に行った利用者は2.2%、1日複数回訪問（1日に2回以上訪問する）は16.7%、長時間型訪問（夜間以外で2時間以上滞在する）は6.7%であった。

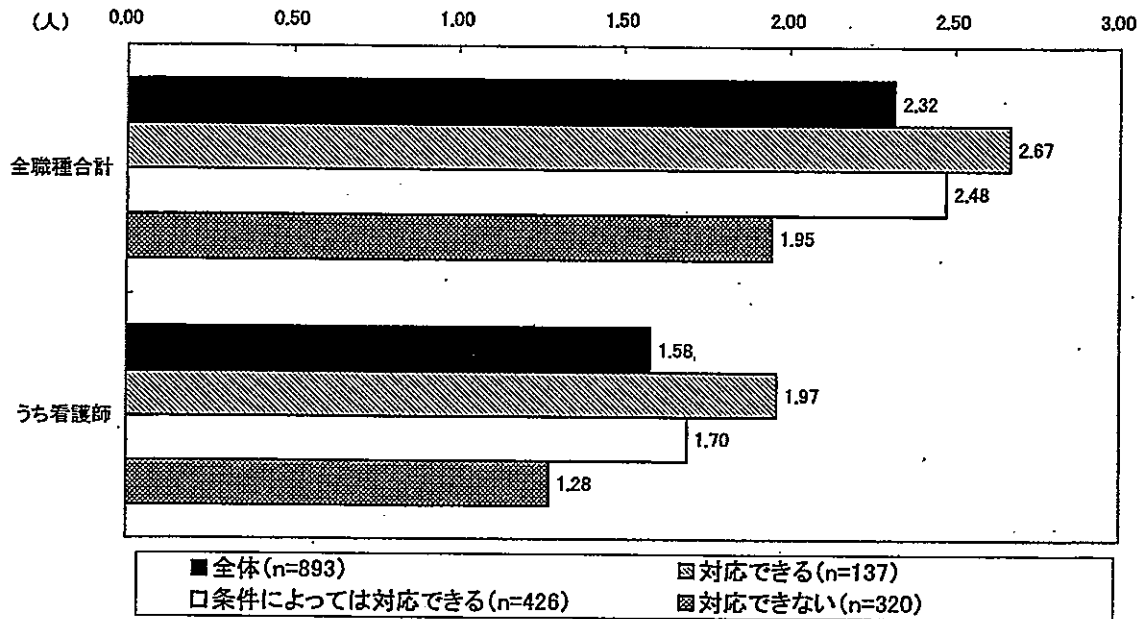
### 3. 回答した施設の概要

- 職員数は平均で常勤 3.7 人、非常勤（常勤換算） 2.3 人、合計で 6.0 人であった。
- 24 時間連絡体制加算の届出を行っている施設は 73.5%、重症者管理加算の届出は 68.1% であった。緊急時訪問看護加算の届出を行っている施設は 76.0%、特別管理加算の届出は 85.3% であった。
- 平成 14 年 12 月 1 ヶ月間の利用者数は、健康保険法等の利用者が 9.6 人（のべ訪問回数 65.4 回）、介護保険法の利用者が 42.5 人（のべ訪問回数 211.7 回）であった。
- 平成 14 年 12 月 1 ヶ月間に時間外訪問した利用者数は、健康保険法等の利用者が 1.1 人（時間外のべ訪問回数 2.1 回）、介護保険法の利用者が 2.6 人（時間外のべ訪問回数 3.9 回）であった。
- 24 時間計画的な訪問看護を行っているのは 15.8% であった。
- 緊急時に訪問対応をしている施設は 78.9%、電話対応のみの施設は 4.7% で、緊急対応していない施設は 4.6% であった。
- 医療依存度の高い利用者の受け入れについて、医療依存度の高い利用者を中心に受け入れている施設は 13.2%、一部受け入れている施設は 70.5% であった。医療依存度の高い利用者はあまり受け入れていないという施設は 13.4% であった。

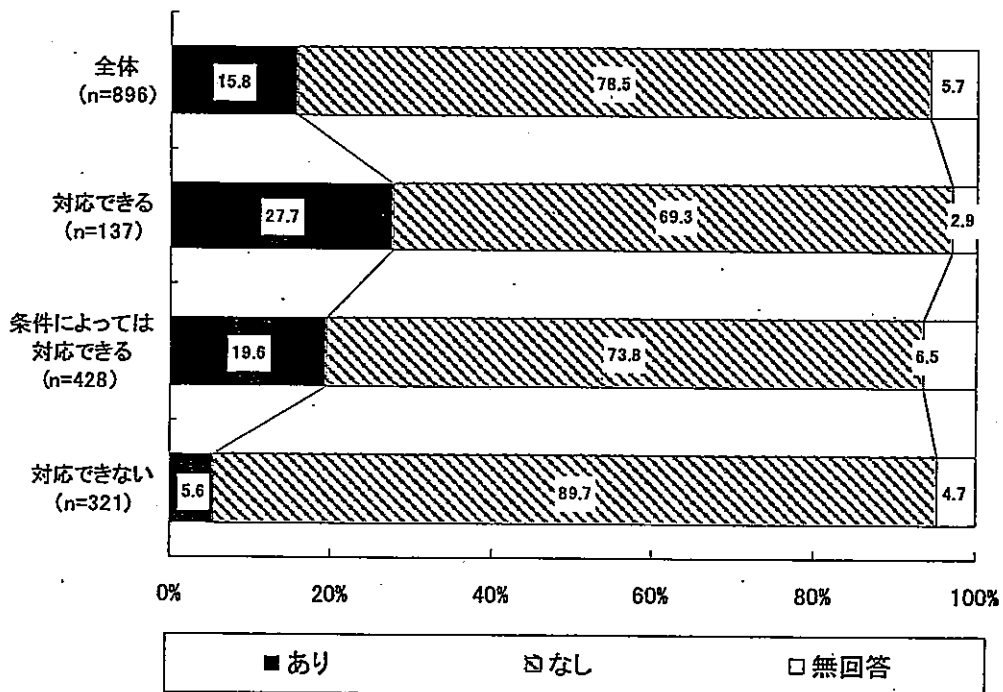
図表 8 常勤職員数（施設当たりの平均人数）・人工呼吸器利用者への対応可能性別



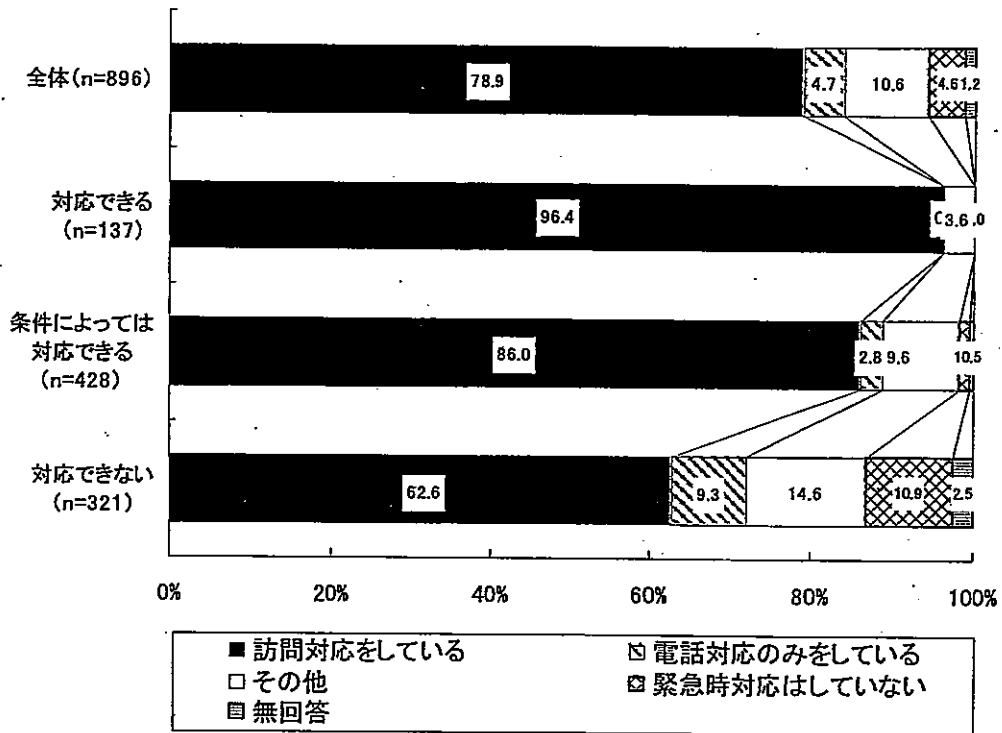
図表 9 非常勤職員数（施設当たりの平均人数）・人工呼吸器利用者への対応可能性別



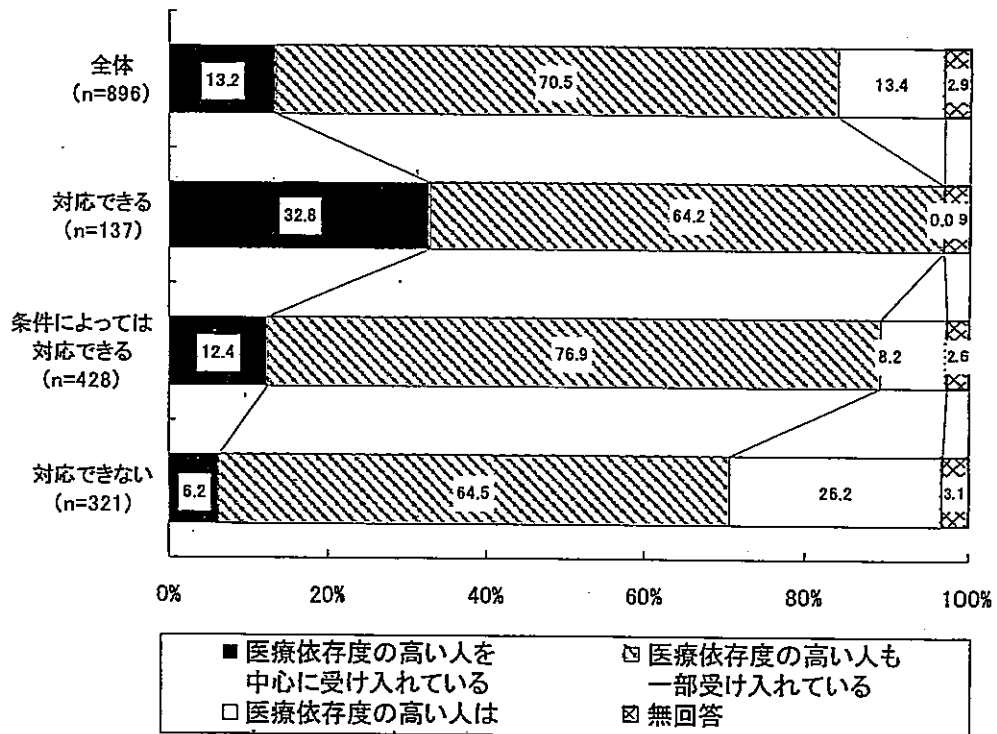
図表 10 24 時間計画的な訪問看護・人工呼吸器利用者への対応可能性別



図表 11 緊急時の対応方法・人工呼吸器利用者への対応可能性別



図表 12 医療依存度の高い利用者への対応状況・人工呼吸器利用者への対応可能性別



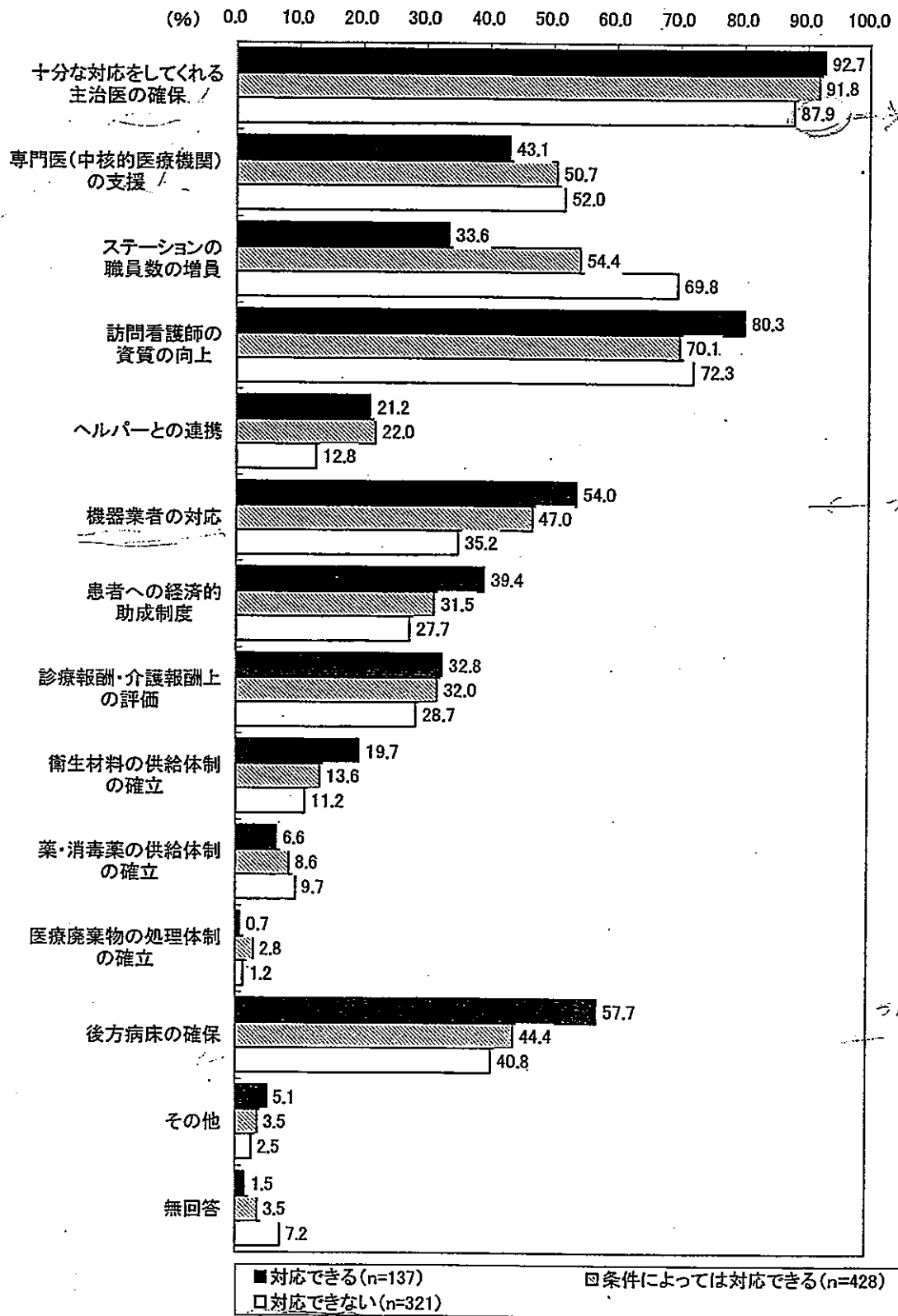
#### 4. ニーズおよび課題

##### (1) 訪問看護ステーション側のニーズ

- 24時間対応するための条件としては、医師の要因（「主治医の対応」「専門医の支援」）、看護のマンパワーの要因（「看護婦の資質の向上」「職員数の増員」）などが多く挙げられている。中でも「主治医の対応」は9割の施設が挙げ、医師の対応が重要な要因となっている。
- 人工呼吸器装着利用者への夜間必要時を含めた対応が可能な施設と対応できない施設とを比較すると、対応できない施設では対応できる施設に比べて「職員数の増員」を求める割合が高く、マンパワーの不足が対応への障害になっている可能性がうかがえる。一方、対応できる施設では、「訪問看護師の資質の向上」「機器業者の対応」「後方病床の確保」などが比較的多く挙げられ、看護師自身の資質向上の必要性とともに、他機関との連携の必要性が指摘されている。
- ステーションの要望や意見の自由回答からは以下のような意見が挙げられた。
  - ・ 2人の看護師による訪問への評価
  - ・ 交代制など夜勤体制への確立と収入の裏づけ
  - ・ 2ヶ所のステーションからの訪問をしやすく
  - ・ 長時間訪問（2～3時間）への評価    ・ 3回以上の訪問への評価
  - ・ 専門看護婦の期待
  - ・ 介護者への支援
  - ・ 呼吸ケア専門看護訪問

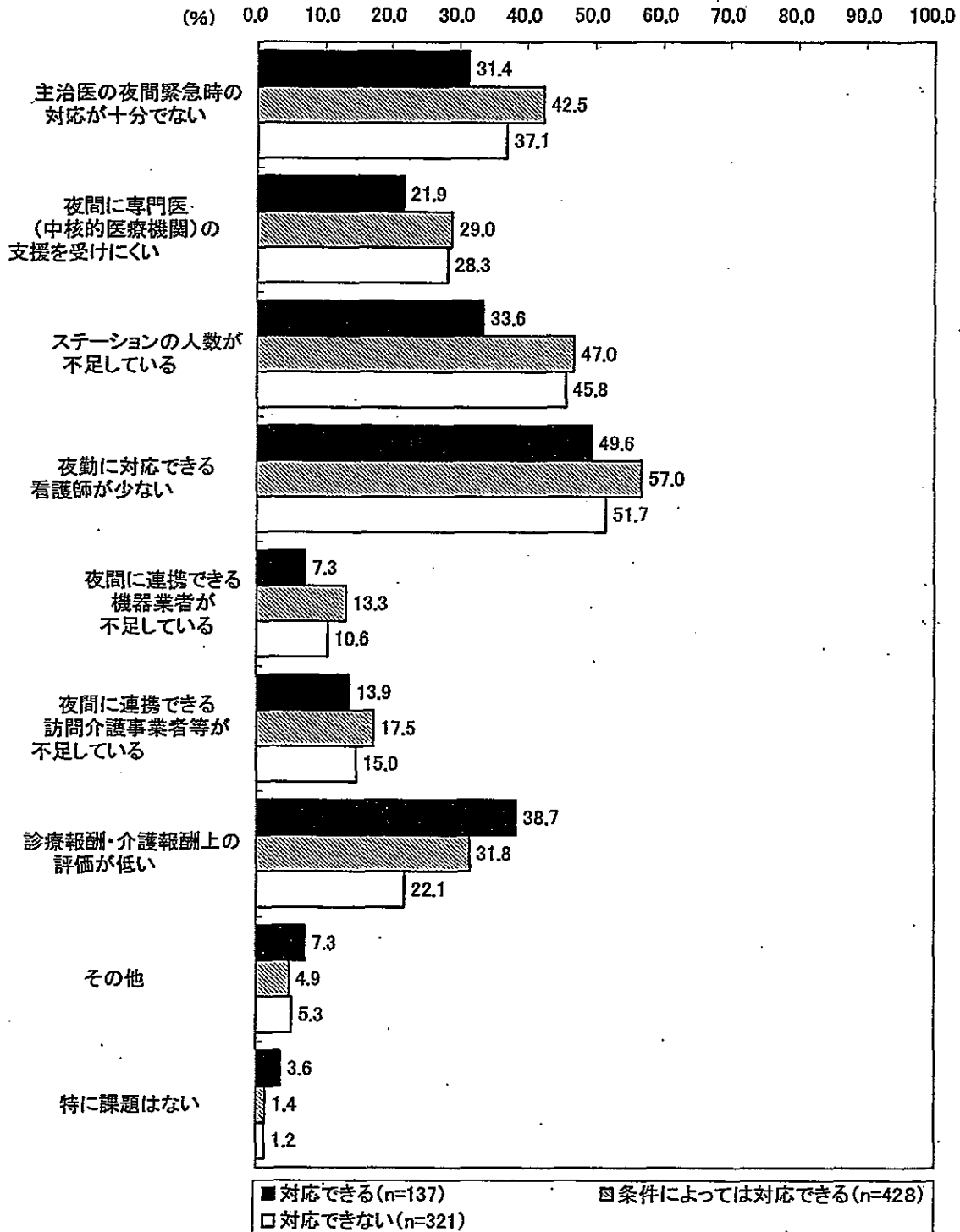


図表 13 人工呼吸器装着利用者への夜間必要時を含めた対応を可能にするために必要な条件・人工呼吸器利用者への対応可能性別



○夜間訪問の課題については、「夜勤対応可能な看護婦が少ない」「ステーションの人数が不足している」などが多く挙げられ、夜間十分に対応できるだけのマンパワーが不足していることがうかがわれる。

図表 14 夜間訪問の課題・人工呼吸器利用者への対応可能性別



○人材の採用・確保の状況について「必要な人材が十分確保できている」「概ね必要な人材が確保できている」と回答した施設は約半数で、残りの半数は「必要な人材がやや不足している」「必要な人材が不足している」と回答している。

図表 15 人材の採用・確保の状況・人工呼吸器利用者への対応可能性別

